http://www.jamee.info/file/jameer/2021/jameer141114.pdf (←本文を開くにはパスワードが必要です。) 日本水圏環境教育研究会（hypomesus@gmail.com）にご連絡ください。

水高と私

長谷川勝治（元静岡県立焼津水産高等学校校長，日本大学非常勤講師）

Ⅰ　はじめに

筆者は，長年勤務した静岡県立焼津水産高等学校の定年を迎えるにあたって，これまでの教育活動を振り返り，母校への想いを記した。

Ⅱ　幼少年時代

学校のすぐ近所に生まれ，物心がつく頃から水高を遊び場としていた。当時の玄関は，今の本館中央付近の非常階段付近にあり北を向いていた。ちょうど水高通りの延長線上にあった。当時どの学校も木造であったのに対し，本校の本館は鉄筋コンクリート 2 階建ての重厚な建物であった。何より威厳を感じたのは，毅然として掛かっていた六稜の校章だった。幼稚園・小学生だった私もそこを通るときは，蛇に睨まれた蛙のように何の悪戯もできず，そこを過ぎたものだった。水高の中で特に遊び場にしていたのが現在の弓道場辺りの所で，そこは木が鬱そうと生い茂っていた。そこに縄をかけてぶら下がったり，木登りをしたり，つかまし(今の鬼ごっこ)やかくれんぼをしたりした。隣の南小から容易に行き来ができ，休み時間・昼休み・放課後と暇さえあれば遊んでいた。

もう一つの遊び場が現在のグランド西側の駐輪場付近にあったプール跡だった。私が小学校のときにはすでに使用していなかったため，そこで野球をやった。プールの壁がフェンスとなり，プールから出ればホームラン。私たちにとっては格好の野球場だった。ただ時々使えないときがあった。水高の 1 年生が中に入り，周りに上級生が陣取り，歌の練習があるときだった。中の 1 年生は大声で歌っていたが，時折石が外から中へ投げ込まれ，私たちが容易に近づけない雰囲気だった。

プールの外側は階段状になっていて，その前のグランドで野球部が練習をしていた。今のレフト側がホームだった。私はその階段に座って練習をみたり，試合があるときには応援もしたりした。幼少の頃から水高野球部に入部していたようなものだった。

Ⅲ　高校時代

そのため，高校も本校に入学した。漁師であった父の強い勧めもあった。焼津中学時代，主将で投手・4 番で数校から勧誘もあり，かなり自信を持って入学したものの，その後伸び悩んだ。中学時代は理論的に教えてくれる指導者がいて夢中で学んだのだが，水高では当時，ただがむしゃらに練習をするだけで，自分が学んだ理論と異なる論に矛盾と疲れだけを感じ，2 年生の時には気持ちの張りを失った。勉強面でも伸び悩んだ。大学へ行って知恵と学歴をつけたいと思ったが，このままでは野球も勉強もダメになってしまう・・・この先自分はどのようにして生きていったらよいか・・・悩み，担任に相談した。担任から励まされ再び両立を目指した。

主将としてチームを引っ張っていったが，同級生の数も少なく，1・2 年生主体の若いチームでもあったためか弱かった。OB で若かった監督はよく怒った。連敗をし続けたある時，1 試合目に負けると，監督は怒っていなくなってしまった。2 試合目は監督がいない。やむを得ず主将である私が指揮を執った。試合は 4－0 で勝ってしまった。怒ったのは相手チームの監督だった。指導者としての魅力を感じたのもこのときだった。

野球が終わってから受験勉強に入った。しかし当時の水高は就職するための学校で，受験勉強に対する意識は，生徒は勿論先生方にもなかった。私のクラスは 47 人いたが，私以外はすべて就職だった。勉強は自分でやるしかなかった。やればやるほど自分のできなさが分かってきて，落ち込む一方だったが，親の反対を押し切って大学への道を進んだのであるから，逃げ出すこともできず，やり通すしかなかった。普